京都大学-香港バプティスト大学合同デザインスクール 実施報告 2016年7月5日 村上陽平

1. 概要

京都大学での FBL/PBL, さらにサマーデザインスクールを経験した本科生 (修士2年)を香港に派遣し、香港バプティスト大学の学生と合同でデザインワークショップを行うことによって、修得したデザイン理論やファシリテーションの手法の定着を図ることが本合同デザインスクールの目的である.このイベントは沖縄でのデザインスクール (修士1年次が中心)の次の機会として設定するもので、英語でのワークショップである点、初めて状況を理解する海外でも問題発見、解決を求められる点で難度が格段に高い.博士課程でのフィールドインターンシップやリサーチインターンシップなど本格的な武者修行の前段としての位置づけるものである.

今年度は、昨年度同様に京都と香港の 2 カ所で開催し、教育システムに関して両都市の 文化差に着目して国際的な視点で取り組むことを目指す。また、今年から香港バプティス ト大学も計算機科学専攻だけでなくコミュニケーション研究科(ジャーナリズム)も加わ ったことで、参加学生の専門分野が多様化し、異分野協働の環境が整った。さらに、参加 者は日本と中国(香港含む)だけでなく、カンボジア、イギリス、レバノン、カナダと国 際色豊かなチーム構成で取り組んだ。

2. スケジュール

今年度は、履修者の授業や研究活動への影響が最小限になるよう、京都でのワークショップ期間を4日から2日に変更している.

2016年4月16日(土)~4月17日(日)

4月16日(土)	各グループでフィールドワークやアイディエーションを実施
4月17日(日)	於:KRP

2016年6月10日(金)~6月13日(月)

6月10日(金)	関西国際空港から香港国際空港へ
	午後 オープニング&招待講演
6月11日(土)	各ワークショップでフィールドワークやアイディエーションを実施
6月12日(日)	夕刻:発表会
	於:香港バプティスト大学
6月13日(月)	香港国際空港から関西国際空港へ

【ワークショップ@京都】









【ワークショップ@香港】









【最終発表会】



3. ワークショップ

香港は、近年、小学校中学年への統一試験の導入や国際的な 3+3+4 制の採用など教育システムを大きく変更してきている。その結果、子ども達へのストレスが増加し、今年になって 15 件の若年層の自殺が発生し問題となっている。そこで本年度は、香港の教育システムの問題を対象とし、テーマを創造性教育のデザインとした。

今年は学生を 4 グループに分け、京大生 2 名、香港バプティスト大生 3 名を 1 グループ とした。また、各グループに 1 名教員を割り当て、教員がファシリテータとなり、それぞれ異なるプロセスで問題解決に取り組んだ。

また、今年は京都セッションと香港セッションとの間に 2 ヶ月あったことから、香港セッションを京都セッションで作成したアイデアの検証フェーズとして捉え、香港セッションでは現場でのアクティビティを準備した。あるグループは香港の現地高校と協力して、京都セッションで検討した「夢実現に向けた多様なパス発見のワークショップ」を高校生に対して実施し、香港の高校生の経験から若年層の抱える問題の抽出を試みた。他のグループは香港の英才教育スクールに訪問し、国の援助を受けて行われている香港の教育方式について調査を行った。これらのアクティビティを通して、子どものストレスを検出するアプリケーションや、子どもに職業の選択の多様性を見いだせるための企業協力型のマイスタープログラムなどの解決策が提案された。

4. 参加者

<学生>21 名

京都大学デザイン学履修者 8名(うち予科 2名) 香港バプティスト大学 13名 < 教員他 > 12名

教員 10 名(京都大学 4 名,香港バプティスト大学 6 名) 職員 2 名(京都大学 1 名,香港バプティスト大学 1 名)

5. アンケート結果

本科生にアンケートを実施し、計8名から以下の回答を得た.

【質問】

ワークショップでの活動の内容と所感を、特に印象に残ったことを中心に記載.

【回答(Yijun Duan)】

In this workshop, I experience the steps of designing solutions to a real-world problem. The steps include problem definition, background research, brainstorm solutions, interviews and surveys, and prototype building. Besides, we did lots of group discussion, presentation and reflection. I learned a lot during this process and got a better understanding of designing.

【回答(平岡 大樹)】

香港の児童を取り巻く問題に対し、私たちの班では実行可能性を重視し、親が子どものストレスに気付くためのアプリケーション開発を提案した。

京都セッション、香港セッションを通して、既にある類似のアプリケーションを引き合いに出しつつ、かなり具体的なディスカッションができたのではないかと感じる。私は参加した他のメンバー(日本・香港含め)と比べて圧倒的に英語ができないので、参加するだけでとてもハードルが高かった。基本的にワークショップでの会話についていくことができなかったが、専門の心理学の立場や、またストレスからの病気で苦しんだ経験から関心も近いものだったので(近くなるよう配慮された結果かもしれないが)、要所要所で議論に関わることはできた。ただ、自身の関心に近いからこそ、もっと自由に議論に加われれば楽しかっただろうと感じられる。

【回答(石黒翔)】

本ワークショップには、異なる文化的背景と異なる専門分野を持つ大学生が参加していた。 ワークショップを通して感じたことは、協働する場面では、個人の文化的背景や専門知識 の何が直接的に効果を持つのかということは明確に分からない場合もあるということであ る。例えば、「心理学に関する知識」が役に立ったと、明確に分かることは多くはないかも しれない。心理学を学んでいるということは、知識を持っていること以上のことを意味し ており、心理学的な物事の捉え方を確立していることも含んでいる。個人の物事の捉え方 が、協働場面において、どのように効果を持つのかということを認識することは難しいと 感じた。しかし、この難しさがあるからこそ、異なる考えを持つ人々が協働することの面 白さや学問的な意義があるのではないかと思った。

【回答(Victoria Abou Khalil)】

The workshop was a very interesting and entertaining experience. I got to know Hong Kong's education system, culture and current economic situation through lectures given by teachers and people from the government, from visiting schools in Hong Kong, interacting with students from Hong Kong and walking in the streets of Hong Kong. I learned a very counter-intuitive design method that lead to ideas I would have never found using my classical thinking process. This workshop was an intellectual and a human experience as I met very interesting people, discussed our different approaches to the theme and our different views on the topic.

【回答(清山陽平)】

まず、高い英語力とそれぞれの専門の知識・能力を持った各国の学生との共同はとても刺激的であった。特にワークショップという全員が対等に意見を言い合う場において、彼ら各々の秀でた部分や思考の違いをより一層顕著に感じられたように思う。しかしながら、例えばチームで行った高校生向けのワークショップでは、それぞれが自分の担当の部分においてはやはり素晴らしい働きを見せる一方、それ以外では極端に集中力が落ちてしまっているようにも感じた。先生がすべてファシリテートしてくれるわけではなく、自分たちで問題発見から解決までを行っていくワークショップであったからこそ、各々が比較的広い視野を持った上で一つ一つを行っていく必要があったように思う。

またその高校生向けのワークショップでは、香港の高校生の能力の高さにも驚かされた。 流ちょうな英語で、彼らの「夢」を語ってくれた姿は非常に印象的であった(夢について 考えるワークショップであった)。

なにより、実際に香港のまちに、教育現場に赴き、また生粋の香港育ちのメンバーの話を聞く中で、この場所のすさまじい「競争」を実感することができたことが、何よりの収穫であったように思う。

【回答(小山 純汰)】

日本の教育環境と香港の教育環境の差分を認識するワークショップの進め方には興味をかきたてられた.

【回答(水野 雅晴)】

香港の印象は一言で表すと Lively であった。入国早々、九龍に向かう車中から建設中の超

高層住宅群に圧倒される。これだけの稠密さならばエネルギーやごみの問題が心配になる訳で、昨年のテーマに取り上げられたのも納得だ。街では、露天商や手押し車、半裸の労働者など、現代日本では殆ど見なくなった光景から派手な看板や建築物などそれぞれが存在を主張し、スマートさと対極をなしている。しかし、これが香港の特徴であり、もしこれらが失われたら「らしさ」がなくなり、彼らが抱える社会問題もより深刻化してしまうのではなかろうかと考えた。

自身の英語力には大いに不安があったが、それは杞憂に終わった。香港という土地柄、あらゆる表記が繁体字と英語で併記されており、見る/読む分には全く不自由がなかった。また、聞く/話す局面においては、皆が根気よく耳を傾けてくれたのはとてもありがたかった。これは、京都セッションでお互いの信頼関係が築かれていたことが大きかったように感じる。

京都では、初回のレクチャーで香港の教育問題の深刻さに衝撃を受け、ワークショップは 両国の教育上の制度や課題を挙げるところから始まったが、各々の個人的体験を踏まえて それらを評価するプロセスが加わったことで、お互いの文化や風習の違いや、各々の人と なりを短時間のうちに理解し受容する効果が生まれたと思う。また、フィールドワークで は児童館と老人ホームが同居する廃校でたまたま開催された模擬駄菓子屋イベントを見学 する機会に恵まれ、少子高齢化先進国の社会的包摂の一例に接することができた。

香港セッションでは天才児向け教育施設の他、わがグループは大規模ショッピングセンターを先生に案内していただいた。書店の教育書コーナーや器楽や美術を含む様々な塾の様子を見るにつけ、それぞれのレベルの高さに驚くとともに、日本のように主要科目偏重でない点は好ましく思った。またレストランでは三世代やたくさんの子連れなど大人数のグループが多く、ここでも Lively を感じた。

最終プレゼンでは、日本独自の「文化祭」を香港の学校でも導入し、生徒がイベントを立ち上げ、参加者や地域社会など様々な人々を巻き込み、実行し、評価するというプロセスを経験すると共に、参加者はいろいろなブースで多様性や新鮮な驚きを感じ、そうしたサイクルを持続させることで校風や歴史が作られていくといった趣旨の案を発表した。

限られた時間と情報量、互いに母国語でない言語によるコミュニケーションという制約の中で解決策を導き出すのはたやすいことではなく、本案も 100%満足のいくものではなかったが、そのような縛りの中でもゼロから相応のアウトプットを驚異的なラストスパートで仕上げるという、ワークショップの醍醐味は存分に味わうことができた。

貴重な経験の機会を与えてくださった両校の先生方やチームメイトに感謝するとともに、 来年参加を予定されている履修生には是非ともお勧めしたい。

【回答(Rachana NGET)】

This joint workshop is a great opportunity to learn and apply the design-thinking concept in finding solutions to the problem. As a part of the process, we discussed and learned from all members consisting of students from Hong Kong Baptist University and Kyoto University and from various disciplines. We created a prototype, which is a Dream Planning workshop to conduct in a local High School in Hong Kong. This experience was impressive to me because in order to seek for solutions, we actually piloted a prototype to learn the real problems in the education system in Hong Kong. Then we analyze the result and suggest some solutions. I think this process was deemed interesting and practical. In addition, some other teams proposed other creative and innovative solutions to cope with the same problem.